



まいづる

農業委員会だより

No.

71

令和4年10月

発行／舞鶴市農業委員会 舞鶴市字北吸1044 TEL 66-1023 FAX 62-9891



彼岸花：曼殊沙華

「長崎物語」で…赤い花なら曼殊沙華…と歌われた彼岸花。稲作や仏教と共に渡来したようだ。

花言葉は「再会」「情熱」「独立」「諦め」「悲しい思い出」など。この花が墓地に多いのは、土葬の時代に動物に荒らされないようにと、田畑に多いのは、モグラなどから害を防ぐためのようだ。

また、鱗茎から採取できるデンプンを精製したものは、食料になるため飢饉に備えて人家や、水田の畔に植えていた。

私たちの認識では不吉な花、怖いというイメージを持ってしまいが、海外では真っ赤で色鮮やかな綺麗な花ということで、人気があるそうだ。
(嵯峨根委員)

主な内容

- 地区別会議活動報告 (白糸・青葉) …… 2
- 集落紹介(杉山) …… 3
- 新規就農者紹介(増本) …… 4
- 新規就農者紹介(寺崎) …… 5
- 水田活用の直接 支払交付金の見直し …… 6
- 舞鶴の農家住宅 …… 7
- 農業大学校学生募集等 …… 8

地区別会議活動報告

ドローン活用の取組(白糸・青葉地区別会議)

舞鶴市農業委員会では、市内を六つに分け、農業委員・農地利用最適化推進委員・事務局職員で構成する地区別会議を立ち上げ、京力農場プランの実質化や農業・農村における課題等に取り組んでいます。その中から、今回は白糸・青葉地区別会議のドローン活用の取組についてお知らせします。

ドローン活用の取組

白糸・青葉地区別会議では、池田三郎代表（農業委員）、藤村順一副代表（農地利用最適化推進委員）を中心に昨年、毎年行わなければならない農地利用状況調査にドローンが活用できないか話合ってきました。

農地利用状況調査では農地一筆毎に目視による調査が必要で、山際や広範囲にわたる農地については、その調査には多大の労力が必要です。そのような中、地元の舞鶴工業高等専門学校では、ドローンを活用した橋梁や建物の調査に取り組んでいたことから、昨年より共同事業として実施したものです。

昨年度は手探りの中で、数か所の農地を選定し、実施しました。今年度はそれを受

け、高専の受託研究として、調査地区や範囲を拡大して行いました。

今後は、地区別会議のメンバーでその映像を分析し、その精度や実効性について議論を深める予定にしています。

南丹市の視察受け入れ

このような取り組みについて、今夏、南丹市農業委員会から視察依頼があり、8月19日（金）に舞鶴工業高等専門学校を会場として実施しました。

その内容は、舞鶴市の方から取り組みの経緯を、高専の方から教育研究支援センターの西村技術専門職員より実際の映像を交えて説明し、その後、質疑や意見交換を行いました。

実は、舞鶴工業高等専門学校 建築システム工学科教授である尾上先生が舞鶴市農業委員の中立委員であり、高専の研究と農業委員会活動を繋げて頂いたことから、今般の産官学の連携となったものであり、今後も連携の絆を深めていきたいと考えています。



ドローン実証実験



南丹市農業委員会視察受入

舞鶴の農村集落の紹介

杉山と「大杉の清水」

8月2日、非常に暑い午後。

府道772号線登尾の杉山入り口から1.2km、杉山の「NPO法人名水の里杉山」理事長の松岡良啓さんを訪ねました。

杉山は舞鶴市の東部、霊峰青葉山の西麓で標高222・8mにあり、江戸時代「その水をなめると清く、かつ甘く銀水のごとく」と評された水が湧き出る大杉神社には、樹齢800年を超える大杉があります。集落の人口は、13世帯33名で高齢化率は72%（60歳以上）です。

杉山集落では、住民の高齢化や鳥獣被害、耕作放棄地の増大などの課題を抱える中、平成12年に中山間地域直接支払い制度への加入検討を始め、「市民農園」を開設する時に、募集した処、27名の応募があり、平成13年に耕作放棄地を復旧し周囲には防獣フェンスを張り開設しました。市民が借用する条件は1区画50㎡で年間費用は、千円です。（耕運機・草刈り機は燃料付きで借用出来、費用込み価格です）農園利用者との交流が始まると、休憩時に、お茶を飲み話が弾むと、お茶を飲むところが欲しい、パンを焼きたい等の要望が出てきました。平成17年には、石窯を手作りし、「杉山パン工房」（パンやピザなどの料理体験）

が開設され、「わさび田の復旧」（大杉のわさびは高級料亭で評判だった）また「NPO法人名水の里杉山」を設立されました。法人の有志が、杉山の棚田と大杉の水で酒米を育て環境省の「平成の名水百選」に選ばれた「大杉の清水」も活用。ハクレイ酒造に製造を委託して作られた地酒「純米吟醸 大杉」は毎年3月上旬から販売されており、平成28年には、地域活性の一環として「名水杉山菜房」をオープンし、そこでは、杉山の素晴らしい景観のもと、自然湧水で育てたお米・山野菜や清水を使用した料理を提供しております。現在の「市民農園」の利用者は、高齢化もあり少なくなりますが、東舞鶴高等学校の「科学部」から農業をやりたいとの話があり、コンニャク芋を栽培しています。杉山地区の活性化はNPO法人と集落の協力者で次々と活性化に取り組み成果を上げています。杉山のありのままの自然は



市民農園

私たちの大切な「宝物」、この「宝物」を未来に残していけるように、まだ次々とやることが多いと話されていきました。

（大石委員）



朝来小学校6年生が描いた杉山への歓迎看板

新規就農者紹介



(上東) 増本

賢志朗 さん (27)
さつき さん (27)

ご夫妻

猛暑と猛威を振うコロナ下の八月、上福井から大川橋に抜ける藤津峠の頂上にある増本家を訪問し、お話を伺いました。

農業を始めるきっかけは、祖父正一さんが定年退職後、農業に従事されている姿に強く憧れを抱き、その正一さんが4年前に他界されたのを期に、自分が農業を継承すると決心し、一昨年より準備、本格的に就農したとのことでした。



現在の経営規模は水稲2.5ヘクタール、主たる作物として落花生30アール、えびいも少量、父の家業であるイチゴ用ハウス3棟の手伝いをされております。

◎今後の意気込みと楽しみ

今後は落花生を中心に、水稲やえびいもを拡大していきたいと思っています。

一つには、上東地区は砂地が多く落花生の生産に適している点と、最近の害獣被害や製品化に手間が掛かることから、作付が減少傾向にある中で、味の良い舞鶴落花生として、非常に人気があり、需要が見込まれると期待しております。舞鶴の特産品として「量は少

なくとも、千葉県産にも負けへんで」を目指していきます。

そして、当地区も高齢化と共に、農地の保持が困難となりつつある中で、少しでもその解消に寄与出来ればと思っております。

将来はネット通信を利用しつつ、少しでも若い方達が地元に戻って来られるような地域作りに貢献できたら、そして将来、新規就農を目指す方のお手本になれるような農家を目指したいと思っております。

最後に、お二人にとって最大の喜びは、なんと云っても今年お子さんが誕生されたこと。今迄以上にご家族や周りの協力を得て、自分たちの目標に向かって邁進されることを祈りつつ訪問を終えました。

(松本委員)



(上村) 寺崎 光男 さん (61)

今日、加佐地域においては、農業担い手の高齢化と不足に加え、由良川や支流の氾濫、有害鳥獣被害の多発等によって、離農される世帯が増加しています。

◎岡田上地区に移住し新規就農

こうした中で、滋賀県甲賀市出身の寺崎光男氏が令和2年12月末に岡田上地域の上村地区に移住され、頑張って農業に取り組んでおられるとお聞きしましたので、農業経営の状況や今後の抱負等をお尋ねしました。

同氏は、二十数年間勤められたワイン関係の会社を退職された後、若い頃からの夢であった「農業をしたい」との願いを叶えるた



め、また、農業に携わるのなら、京野菜を栽培したいということで、舞鶴市農村集落空き家情報バンク制度に申し込み、農地やトラクター、農業資材付きの空き家を上村地区で取得し、念願の農業に従事でき、生き生きとしておられました。

◎京野菜の栽培

野菜栽培をされるにあたっては、「J A 京都にのくに」の野菜の学校やえびいも講習、未来塾等に参加され、野菜栽培の技術取得に努められたそうです。

そして今では、20アールの畑地で、京野菜でブランド商品の万願寺甘とうを露地4アールで苗400本、えびいも苗200本、さつまいも苗150本を栽培されています。特に、6月下旬から10月末までが収穫期である万願寺甘とうは、午前は5時30分から8時まで収穫し、午後は午後4時まで選別、夕方は収穫・水やり・土寄せ・草刈等をされています。

◎今後の農業経営や農村に対する思い

寺崎氏個人としては、当面3年程度は、ライフワークとして畑作を思う存分に楽しみ、収益が上がるようになれば、経営規模等の拡大も含めて検討したい。

また、移住後は、上村地区の農事組合長等から農業従事者としての心得を教えて頂いたり、田畑耕作者の集まりに参加するなどして、積極的に区民との意思の疎通に努め、自



然環境の保全、良好な景観の形成など、農業・農村の多面的機能を保持する上からも、上村地区内で遊休農地や耕作放棄地が出ないよう、他の農業従事者と一緒になって、草刈等の共同作業に汗を流しておられるそうです。今後より一層精を出してくだされう。期待しています。
(淡路委員)

水田活用の直接支払交付金 対象農家の皆さんへ



交付対象水田は、水張りができる農地（畦畔や用水路がある農地等）という従来からのルールが再徹底されました。

また、今後5年間（令和4～8年）に一度も水張り（水稻作付）が行われない農地は交付対象としない方針となりましたので、計画的に営農していただきますようお願いいたします。

この国の
農と食を
伝えます。

全国農業新聞は農業者の
公的代表機関である
農業委員会系統組織が発行する
週刊の農業総合専門誌です。

全国農業
新聞

NATIONAL
AGRICULTURAL
NEWS

週刊 金曜日発行

月700円、年8,400円
(消費税込)

■購読のお申し込みは、
農業委員会事務局へ
TEL 0773-66-1023

■発行所
全国農業会議所

新委員紹介



農地利用最適化推進委員
第11区:池内地域

泉 宜夫

農用地の借受希望者を募集します!

京都府農地中間管理機構では、農地の借受を希望する方の募集を行っております。募集区域は市街化区域の農用地を除く農地で現在の募集区域は機構ホームページ上に掲載しております。

※詳しくは京都府農業会議または市役所農林課農政係までお問い合わせください。

問い合わせ先

- 一般社団法人京都府農業会議(京都府農地中間管理機構)
TEL: 075-417-6868
ホームページURL: <https://www.agr-k.or.jp/~kyoto-j/farmbank/>
- 舞鶴市役所農林課農政係
TEL: 0773-66-1023



主屋の横大戸口側



地域の行永住宅保存維持協力会の方々

座敷と庭の風景



舞鶴の農家住宅

行永家住宅

その2

当主と地域が守る
重要文化財の民家



前回に続き、舞鶴市小倉にある「行永家住宅」を紹介します。

行永家住宅の建つ場所は、幹線道路から少し離れた集落です。周辺は民家と農地、山林の自然が残る環境です。行永家住宅の存在は集落の歴史・文化を伝えるとともに、地域景観の重要な構成要素になっています。

公開日には門の扉が開かれる



行永家住宅は春と秋の二回、一般に公開されます。二〇〇三年の解体修理終了後に行われた一般公開をきっかけに、現在まで続いています。この取り組みは、当主の理解のもと実施され、地域住民の有志による行永家住宅保存維持協力がボランティアでサポートし、公開前の清掃活動や当日のイベント企画・運営、見学解説などを行っています。このような、取り組みは、地域コミュニティーの存続と貴重な民家の保存活用には有効な手段です。 (尾上委員)

京都府立農業大学校

学生募集

京都府立農業大学校では、府内で農業に従事したい意欲ある学生を募集しています。



	一般入学試験（前期）	一般入学試験（後期）
願書受付期間	令和4年12月1日（木）～12月14日（水）	令和5年1月20日（金）～2月1日（水）
試験日	令和5年1月12日（木）午前9時20分～	令和5年2月17日（金）午前9時20分～
試験場所	京都府立農業大学校（綾部市位田町検前30）	

詳しくは、
農業大学校へ直接
お問い合わせ下さい。

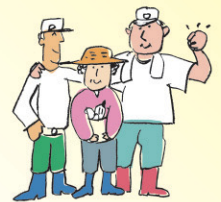
電話

0773-48-0321

農業者年金 で安心、豊かな老後を!

～農業者年金に加入しましょう～

- 農業者なら広く加入OK
- 保険料は自由に設定OK
- 税制上の優遇措置あり
- 農業の担い手には手厚い政策支援
- 少子高齢時代に強い年金
- 終身年金で80歳まで保証



農業者年金の内容やご相談については、最寄りの農業委員会かJAまたは農業者年金基金(TEL:03-3502-3199)にお問い合わせください。

(農業者年金加入推進部長 霜尾委員)

編集後記

■今年2月ロシアがウクライナに一方的に侵攻して、多くの人々が犠牲になり、また多くの施設も廃墟になる等、本当に残酷な事をもたらしています。

これは、ヨーロッパのみならず、世界全体に災いをもたらす要因を含んでいるので心配です。

■一方、我々農業従事者の立場では、農産物不足による食料品の高騰、家畜の飼料や肥料等の不足、農機具燃料代の値上がり等種々の影響を受けています。

■そのような中、米価の大幅下落、日本の食糧自給率の低下には、今抜本的に対策を打たなければ手遅れになる心配について老婆心ながら苦慮をめぐらすのは私だけでしょうか。
(櫻井委員)

広報委員

委員長	嵯峨根 秀樹
副委員長	松本 圭司
委員	淡路 辰己
委員	大石 昌彊
委員	尾上 亮介
委員	櫻井 昭秀